

宮城県教育委員会 (所在地: 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1)

事業名

学びを通じたみやぎの共生社会推進事業

事業の趣旨・目的

- ・障害の有無にかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指す。
- ・学校を卒業しても学び続けることができる持続可能で循環できる仕組みを形成する。

事業実施体制・連携先

コンソーシアムの構成員
大学教授、特別支援学校長、特別支援学校PTA等連絡協議会長、県社会福祉協議会、県障害者スポーツ協会、NPO、障害当事者支援団体、県公民館連絡協議会、再委託市町村・団体、企業、行政（県障害福祉課、県教育庁特別支援課、県立自然の家）

事業内容

○ 「学びを通じたみやぎの共生社会推進事業」地域コンソーシアムの開催 (年4回)

コンソーシアムにおいて、以下の4点について考えていく。

- ①市町村において、持続可能な取組のための方策を実践を踏まえながら考えていく。
- ②「障害者の生涯学習」を通して、地域でどのようにかかわっていくのか、どのように生きていくのか等を考えていく。
- ③職員、地域等様々な立場の方の学びの在り方について考えていく。
- ④実態調査を行い、県内の「障害者の生涯学習」についての現状と課題を把握する。

○ 実践研究

- ①市町村や公民館でのプログラムの実施
→市町村において地域の実情に応じたプログラムの実施
- ②県立自然の家（3か所）でのそれぞれのプログラムの実施
→障害者団体の宿泊体験、親子での体験学習、出前講座の実施
- ③支援学校との連携
→同窓会や青年学級と地域の公民館との連携
- ④コンソーシアム委員同士の連携事業の実施
→公民館とおやじの会の連携
→障害者スポーツ協会と自然の家の連携

○ 普及啓発

- ①生涯学習課の生涯学習情報サイト「まなびのWEB宮城」を活用した学びの場の提供。
- ②生涯学習・社会教育等関係職員研修会や圏域ごとの研修会など、職員の学びの場を増やし、障害者の生涯学習についての理解を高める。
- ③「つなげる・広がる」をテーマとした共生社会コンファレンスを実施。事例や参加者同士の交流を図り、つながりをつくり、事業の拡大を図る。

事業終了後の目指す方向性

- ・市町村において、障害者の生涯学習について理解を深め、事業や地域の取組などに誰もが関わられるようになる。
- ・市町村において障害者の生涯学習を通じた地域づくりや人のつながりが生まれ、障害の有無にかかわらず、地域の一員としての取組が図られる。
- ・市町村で活動している障害者団体等と連携を図り、講座の提供や場所の確保等互いの役割をもって取り組めるようになる。

その他



令和5年度共に学び、生きる共生社会
コンファレンスinみやぎの様子掲載